

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071900908
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー
事業所名	いきいきハウス日吉町
所在地	福岡県田川市大字糺2279番地5 電話 0947-45-8834

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成22年3月13日	評価確定日	平成22年4月1日

## 【情報提供項目より】(平成 22 年 3 月 4 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤4人, 常勤換算	4.6 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨スレート 造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	-------------------------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	10,000円(光熱水費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は1日あたり 800円			

## (4)利用者の概要(3月4日現在)

登録人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2	要介護2	5		
要介護3	1	要介護4			
要介護5		要支援2	1		
年齢	平均 81 歳	最低 57 歳	最高	92 歳	

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	中越医院 丸の内歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

いきいきハウス日吉は、県道沿いの交差点にある1ユニットのグループホームである。地区自治会に加入し、入居者が盆踊りや櫓づくり、田川市の敬老会、地域で開催されている転倒予防教室に参加するなど、理念の「個人の尊厳、その人らしい生活、穏やかな安心と満足のある暮らし、家庭的な楽しい雰囲気」の具現化に取り組んでいる。ここ1年で系列のグループホームへの異動もあり、職員全員が交代しているが、入居者のペースに合わせた支援や毎日の散歩、病院受診の支援及び地域行事の参加など継続した支援が続けられ、また管理者は入居者の意向が把握しやすいように独自で表を作成したり、入居者の楽しめるレクリエーションを職員が企画するなど前向きな取り組みに、全職員の努力が伺える。なにより入居者が生き生きと話をされる姿を見て、職員の傾聴姿勢が促進したり、「入居者が笑ってくれる顔を見るのがうれしい」と職員が話しているが、職員の笑顔を見て入居者も穏やかになるなど相乗効果を生んでいる。そして、運営者は職員の定着について模索しながらも、研修参加や資格取得支援に積極的に取り組まれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を活かし、運営推進会議実施要綱の整備や外部評価の結果報告、入居者の意向を踏まえ職員の意見を取り入れた介護計画の作成、個人情報に関する規程や成年後見制度等のパンフレットを整備している。又、人権に関する研修を行うなど改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の交代もあり、自己評価は運営者と管理者でまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議実施要綱を整備し、家族代表、区長、ホームドクター、市担当者の参加で、2ヶ月毎に夕方6時から開催され、入居者の様子や行事、外部評価の結果を報告している。家族から食事についてや感冒時の対応などの質問があったり、家族会からの提案で行事に協力してもらっている。又、ホームドクターより入居者の徘徊等について質問があり、状況の再把握できている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族会は年に1回食事会で交流が行われている。運営推進会議に家族代表が交代で出席し、入居者の対応について尋ねたりしている。訪問調査当日も職員の退職に対して気がかりな事を話された家族に、時間をかけ丁寧に対応されている。重要事項説明書にホーム及び関係機関の苦情相談窓口を明記し、玄関に意見箱を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区自治会に継続加入しており、ゴミ拾いや集会所の清掃に職員が参加している。入居者が盆踊りに1名、櫓づくりに3名、田川市の敬老会に8名参加したり、地域で開催されている転倒予防教室に2名が継続して参加している。又、子ども110番を受け、入居者1名が毎日夕方バルコニーから下校の児童に挨拶するのを楽しみにしているなど、日常的な交流がある。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程・重要事項説明書に運営方針として家庭的な環境の下での生活支援や地域住民の方との交流及び地域との連携を明記している。理念の「個人の尊厳、その人らしい生活、穏やかな安心と満足のある暮らし、家庭的な楽しい雰囲気」を玄関に掲示している。	○	パンフレットにも運営方針とされていることを明記され、さらなる取り組みを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時にケア目標を、月1回のミーティング・勉強会時に理念を唱和しているため、入居者を敬う気持ちが育ちつつある。又、職員採用時理念を伝え、個々の入居者の介護計画に沿って、外出支援や頭脳リハ等に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に継続加入しており、ゴミ拾いや集会所の清掃に職員が参加している。入居者が盆踊りに1名、櫓づくりに3名、田川市の敬老会に8名参加したり、地域で開催されている転倒予防教室に2名が継続して参加している。又、子ども110番を受け、入居者1名が毎日夕方バルコニーから下校の児童に挨拶するのを楽しみにしているなど、日常的な交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の交代もあり、自己評価は運営者と管理者でまとめている。前回の外部評価を活かし、運営推進会議実施要綱の整備や外部評価の結果報告、入居者の意向を踏まえ職員の意見を取り入れた介護計画の作成、個人情報に関する規程や成年後見制度等のパンフレットを整備している。又、人権に関する研修を行うなど改善に取り組んでいる。	○	各職員が自己評価に関わることで多くの気づきがあると思われれます。また、積極的に改善されていますので、外部評価の結果を職員間で検討し、継続して改善に取り組まれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要綱を整備し、家族代表、区長、ホームドクター、市担当者の参加で、2ヶ月毎に夕方6時から開催され、入居者の様子や行事、外部評価の結果を報告している。家族から食事についてや感冒時の対応などの質問があったり、家族会からの提案で行事に協力してもらっている。又、ホームドクターより入居者の徘徊等について質問があり、状況の再把握できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと入居者について情報を交換したり、担当窓口の保健師に血糖についてのアドバイスをもらい介護に活かすなど、相談もしている。又、入居希望者を地域包括支援センターへ紹介している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	運営者は社会福祉協議会が開催する日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修に参加し、ホーム内の倫理の研修時にパンフレットに基づいて伝達研修を行っている。入居時必要な方には説明している。今回も地域包括支援センターと連携をとり成年後見制度の活用を勧められたが、活用に至っていない。しかし、其の過程で親類の方が他の承認を得て保護者になられたなどの経緯がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族が毎月訪問しており、入居者の生活ぶりや受診の結果などを報告し、介護計画の説明や金銭出納簿の確認に署名捺印をもらっている。又、誕生会・行事の様子や新入居者の紹介を掲載した「いきいきだより」を2～3ヶ月に1回発行し、配布している。職員の異動は随時家族に報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年に1回食事会で交流が行われている。運営推進会議に家族代表が交代で出席し、入居者の対応について尋ねたりしている。訪問調査当日も職員の退職に対して気がかりな事を話された家族に、時間をかけ丁寧に対応されている。重要事項説明書にホーム及び関係機関の苦情相談窓口を明記し、玄関に意見箱を設置している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列のホームへ2名の異動を含め、1年間で職員全員が交代しているが、全職員で入居者の意向の把握や寄り添う支援に努めている。新人職員が資格習得後に退職する状況があり、職員の定着や育成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用は「高齢者と介護が好きなおこと」を重視し、60歳代の職員も雇用しており、幅広い年齢層を採用している。又、雇用契約書を取り交わしサービス規程を整備し、健康診断や休憩時間の確保及び資格習得を支援している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	契約書に入居者の権利として身体拘束虐待防止を明記し、身体拘束防止マニュアルを整備しているが高齢者虐待防止マニュアルがない。運営者が行政主催の人権研修に参加し、ホーム内の勉強会で伝達研修を実施している。又、些細なことでも、身体異常の発見レポートで報告されている。	○	高齢者虐待防止マニュアルの整備をお願いします。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修会に沿って研修を実施している。入職者は、管理者のサポートを受けながら習熟度に合わせた指導を受けたり、外部の新人研修にて接遇や介護技術の習得に努めるなど、運営者は職員の資質の向上のため外部の研修を受ける機会を設けている。若い管理者ではあるが管理者研修に参加し、職員が気軽に相談できる存在となっている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は全国高齢者グループホーム協議会に加入している。地域同業者との交流はないが、居宅支援事業所やサービスセンターと交流している。福岡県高齢者グループホーム協議会の加入を検討している。	○	情報交換や職員の人事交流による向上のため、地域同業者との連携をお願いします。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予約が4名(内3名入院中)あり、病院に面会に行き、医療関係者より情報を得て入居予定者の把握に努めている。できるだけ見学や体験入所をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯物の干し方、お花のことなど入居者が生き生きと話をされる姿を見て、職員の傾聴姿勢が促進している。「入居者が笑ってくれる顔を見るのがうれしい」と職員が話しているが、職員の笑顔を見て入居者も穏やかになるなど相乗効果を生んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全社協・在宅版ケアプラン作成の書式やフェイスシートで、入居者の意向や情報把握に努めている。管理者からの提案で、意向シートを作成し、生い立ち・嗜好・できること・嫌いなことの書き込みに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃より入居者・家族の思いや希望を聞いており、毎月のミーティングに受け持ち職員から出された情報や意見を検討し、管理者がサービス担当者会議で報告して介護計画を作成している。家族訪問時に介護計画を説明し、署名捺印をもらっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3～6ヶ月毎にモニタリングを行い見直しをしている。入居者状態や家族の希望、受け持ち職員の情報意見をもとに目標がステップアップしていく介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて、病院受診や買い物など支援に務めている。又、入居予定の地域の高齢者に昼食のお弁当を配達している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の定期的な訪問診療や歯科検診が年1回行われている。専門医の受診は家族に同行をお願いしているが、状況に応じて支援している。又、専門医への情報提供は協力医が紹介状や電話でやりとりをしている。受診予定表や受診結果記録簿を整備し、適切に受診が支援され、家族に報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の指針や意向確認及び同意書を整備している。現在まで看取りはないが、今後に備えて職員の意識の統一や教育がされておらず、具体的なマニュアルが整備されていない。	○	職員の意識の統一や教育のため研修会や、状況に応じた段階的に入居者や家族の意向が確認できる具体的なマニュアルの整備に取り組まれること期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する規程や利用目的を明記した書面を整備し、掲示している。契約書や就業規則に守秘義務について明記し、入居者の個人ファイルは職員室の奥でカーテン見えないように保管されている。又、職員は入居者のペースに合わせ、穏やかに対応している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れはあるが、排尿パターンを把握した誘導でオムツの使用量を減らしている。買い物に出かけたり、できるだけ入居者、個々のペースに合わせている。又、頭脳レクで入居者にあわせ計算問題を職員がつくり、楽しみながら訓練できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3日毎、食材の買い物に入居者と出かけている。入居者が選びやすいように二つの内どちらが良いかと示して選んでもらったり、レジでお金を支払ってもらっている。入居者の当番があり、皮むきやもりつけ、下膳などお願いしている。ケーキや団子づくりには入居者の表情も和らいでいる。日ごろは職員も見守りをしながら一緒に同じ食事を食べている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、お昼から3名づつ入浴している。夕方の入浴希望も職員の都合がつけば対応できる。入浴を拒まれた時は職員を変えて声かけしたりして誘導している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日、花に水やりをしたり、子どもの好きな入居者は下校時にバルコニーで椅子に腰掛けて子どもたちに手を振ったりしている。盆踊りの櫓作り、餅つきでは火熾しや餅をついたり丸めたりと慣れた手つきで楽しまれた。また月1回の外での食事は、職員は下準備や安全の確保等注意も必要であるが、楽しみにされている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日できるだけ近くにある畑や公園に散歩に出かけている。買い物や外食、花見などよく外出している。また、元入居者の一周忌のお参りにも出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は19時～翌朝7時まで鍵をかけているが、昼間は鍵をかけずに見守り対応していて、不穏な状態を職員が感じると、声掛けを行い外出を支援し気分転換を図っている。緊急時に備え、入居者の顔写真や履物を撮っている。外出した時にはすぐ分かるように、下駄箱には入居者ごとの履物トレイがある。さらに交番に入居者のリストを届けている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルを整備し、消火器を設置している。消防署の協力で、通報、消火活動、車椅子やシーツを使用した避難訓練が実施されている。救急蘇生法についても学んでいる。非常食が備蓄されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在は食事制限者はいないが薄味の食事が提供され、摂取量を記録している。1日1600Kcalの献立を市立病院の栄養士に見てもらい、毎日のメニューを写真に撮って家族に報告している。又、水分は1600ml以上の摂取を支援し、便秘の解消につなげている。毎月2回、体重を測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には靴いれの棚があり、入居者毎のトレイに履物が納められている。玄関との仕切りのアコーデオンカーテンを開けると共用スペースでオープンキッチン・食堂、その奥には畳コーナーやソファが置かれたテレビコーナーがあり、それぞれがお気に入りの場所で寛いでいる。浴室、トイレ前にはカーテンがかけられプライバシーが配慮されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は寝具や衣装ケースや遺影などもちこまれ、お孫さんの写真やお誕生会のお祝いが飾られている。帽子などを掛けやすいように洗濯バサミを利用したり、入居者にあわせて工夫している。各居室に押入れがあり、予備の寝具や衣類、日常生活用品が収納され、居室が広く使え、窓から外に咲いた菜の花が見えたりする。		